

目次

まえがき.....	vii
-----------	-----

第 I 部 文の基本要素：文の骨格

第 1 章 動詞と助動詞.....	3
1 助動詞と動詞の語順 ～みんなに褒められるだろう～.....	4
2 動詞／形容詞と助動詞の間 ～無いものは見えないよ～.....	6
3 スルとアル ～若くもあり，よく食べもする～.....	8
4 認識の助動詞 ～誤りもありぬべし～.....	10
5 助動詞の過去形 ～助けることもできるけど～.....	12
6 動詞の意味を補完する名詞 ～雪が降り，ときどき吹雪くでしょう～.....	14
7 名詞由来の動詞 ～もうググってみた？～.....	16
8 自動詞と他動詞の交替 ～なせばなる～.....	18
9 動詞の使い分け～ねえ，見て，ほらね～.....	20
10 軽動詞 ～結婚をする～.....	22
おすすめの本と論文.....	24
第 2 章 名詞と代名詞.....	27
1 可算名詞と冠詞 ～3 匹の侍～.....	28
2 不可算名詞と冠詞 ～1 つの証拠～.....	30
3 名詞を限定する要素 ～あの私の車 vs. 私のあの車～.....	32
4 名詞の特定性 ～3 人の赤ん坊 vs. 赤ん坊 3 人～.....	34
5 名詞化 ～患者の検査～.....	36
6 再帰代名詞 ～もし患者が自分自身だったら～.....	38
7 相互代名詞 ～困ったときはお互いさま～.....	40
8 名詞句内部の代用形 ～いつものを頼むよ～.....	42
9 空主語代名詞 ～タバコを吸うのは健康に悪い～.....	44
10 束縛代名詞と指示表現 ～明日は明日の風が吹く～.....	46
おすすめの本と論文.....	48
第 3 章 格助詞と形容詞.....	51
1 場所格交替 ～本棚(の本)を片づける～.....	52
2 場所の主語化 ～ここから山がよく見える～.....	54
3 二重目的語動詞の受け身 ～与えられるものは何？～.....	56

4	心理述語の形式 ～彼の行動が僕を驚かせた～	58
5	「教える」の交替 ～いったい何が教えられる？～	60
6	状態性の度合い ～「背が高い」と「不機嫌だ」～	62
7	否定接辞の品詞転換 ～「意味」と「無意味」～	64
8	分離不可能所有 ～彼女は長い足をしている～	66
9	動作を表す形容詞 ～太郎が忙しくしている～	68
10	結果述語 ～花瓶が粉々に壊れる～	70
	おすすめの本と論文	72

第Ⅱ部 文の補助要素：文の筋肉

第4章	時制と相	77
1	現在形 ～映画を見る～	78
2	過去形 ～映画を見た～	80
3	アスペクト ～結婚している～	82
4	名詞修飾節内のテンス ～美しかった妻～	84
5	時制と主格 ～ドラえもんがどら焼きを食べた～	86
6	現在完了形 ～アメリカに行ったことがある～	88
7	過去完了形 ～手紙を書いていた～	90
8	仮定法の時制 ～晴れば、出かけている～	92
9	アスペクトとムード ～明日は、予定が入っていた～	94
10	テンスと事実 ～単語を覚えさせられていた～	96
	おすすめの本と論文	98
第5章	疑問詞と副詞, そして終助詞	101
1	疑問詞 ～誰か来たけど誰が来たの～	102
2	こそあどの「ど」～そこ, どこ?～	104
3	疑問詞疑問文 ～優子は誰と結婚したの～	106
4	wh 疑問文の成立 ～美咲は何を食べたと思いますか～	108
5	譲歩節 ～何が起ころうとも～	110
6	カラ節・if 節の曖昧性 ～来てから, 来たから～	112
7	「まで」とuntilの否定 ～10時まで寝なかった～	114
8	理由節と否定 ～金持ちだから結婚しない～	116
9	疑問・命令の終助詞 ～見たの? 見ろ!～	118
10	語順が厳しく制限される品詞 ～見たわね, 見たわよ～	120
	おすすめの本と論文	122

第6章 態と否定.....	125
1 英語にない受動態 ～赤ん坊に泣かれた～.....	126
2 動詞の形容詞的用法 ～尖った耳～.....	128
3 状態受動 ～鍵が壊れている～.....	130
4 非能格動詞と非対格動詞 ～水が凍った～.....	132
5 被害や恩恵のニュアンス ～動物園に連れて行かれた～.....	134
6 否定と連言 ～カエルもヘビも飼っていない～.....	136
7 否定と選言 ～トマトかイチジクが野菜ではない～.....	138
8 否定の位置 ～太郎は何も食べなかった～.....	140
9 準否定 ～東京にはめったに行かない～.....	142
10 否定極性 ～富士山はとても美しくない～.....	144
おすすめの本と論文.....	146

第Ⅲ部 構文から見た日本語文法と英文法

第7章 単文レベルの構文.....	151
1 単文の成立条件 ～太郎が泣き、次郎が笑う～.....	152
2 単文の成立要件としての述語 ～若く、丈夫で、よく働く～.....	154
3 単文の重なり ～太郎は泣いたが、次郎は笑った～.....	156
4 省略のある構文 ～食べてみてよ～.....	158
5 単文と複文の狭間の分詞構文 ～そうはいつでも、幸せだ～.....	160
6 尊敬と丁寧を表す構文 ～ご紹介致します～.....	162
7 命令文と文法制約 ～少年よ、大志を抱け～.....	164
8 付加疑問文 ～泣いたのではないですか？～.....	166
9 存在文 ～庭にたくさんの犬がいる～.....	168
10 状態述語と様態の副詞 ～いっしょにいと幸せだね～.....	170
おすすめの本と論文.....	172

第8章 複文レベルの構文.....	175
1 例外的格標示 ～彼をバカだと思う～.....	176
2 話題化文 ～あの人は去った～.....	178
3 叙実動詞 ～彼はそのことを悔やんだ～.....	180
4 上昇構文 ～あの人が走っている～.....	182
5 コントロール構文 ～下級生がアイスを買ってもらった～.....	184
6 総称的解釈 ～朝早く起きることはいいことだ～.....	186
7 難易構文 ～この辞書が一番使いやすい～.....	188
8 縮約 ～今日もあの人は走ってる～.....	190

9	認識構文 ～あの子がかしこく思える～	192
10	使役構文 ～母親が子供に本を読ませた～	194
	おすすめの本と論文	196
第9章 関係節と関連構文199		
1	関係節化 ～先生が本をあげた学生～	200
2	付加詞の関係節構文 ～ケーキを切ったナイフ～	202
3	主要部削除型関係節構文 ～アイスが冷凍庫にあるの～	204
4	条件節の隠れた関係節構文 ～やせる薬～	206
5	非制限的用法 ～笑顔がステキな上戸彩～	208
6	曖昧な関係節構文 ～太郎が壊した家の窓～	210
7	複合関係詞 ～好きな人は誰でも～	212
8	縮約関係節 ～カナダからの手紙～	214
9	強調構文 ～送ったのは昨日だ～	216
10	関係節と同格節 ～優介が爆笑した話～	218
	おすすめの本と論文	220
第10章 日英語構文のミスマッチ223		
1	存在と出現 ～このビルの2階には高齢者が働いている～	224
2	存在と所有 ～誠也はタバコを手に街を歩いた～	226
3	数量詞の位置と種類 ～学生が部屋に3人入ってきた～	228
4	擬似目的語 ～遥菜はきれいな目をしている～	230
5	「純粋な」二重目的語 ～航太は友香の成功を羨んだ～	232
6	能動文と受動文の中間の文 ～窓が開けてある～	234
7	極性表現 ～リンゴなんか食べない～	236
8	全文否定と部分否定 ～桃子のように英語ができない～	238
9	全体解釈と部分解釈 ～ゴミ箱がいっぱいだ～	240
10	順次解釈と同時解釈 ～酒を飲んで運転した～	242
	おすすめの本と論文	244
	参考文献	247
	あとがき	255

1

助動詞と動詞の語順 ～みんなに褒められるだろう～

日本語の場合

日本語の文には必ず動詞(か形容詞か形容動詞か名詞+断定の助動詞「だ」)が1つ必要である。

- (1) みんなが太郎を褒める。
- (2) 太郎がリングを食べる。
- (3) 太郎が花子に手紙を送る。

これらに加え、動詞に意味を追加する目的で使われるのが助動詞である。日本語の助動詞には受け身を表す「れる・られる」、希望を表す「たがる」、推量を表す「だろう」などがあり、これらが用いられると(1)-(3)の文は(4)-(6)のようになる((1)は受動態の文に書き換えている)。

- (4) 太郎がみんなに褒められる。 (褒める+られる)
- (5) 太郎がリングを食べたがる。 (食べる+たがる)
- (6) 太郎が花子に手紙を送るだろう。 (送る+だろう)

それぞれの例からわかるように、助動詞は単に必要に応じて使われるというだけではなく、必ず動詞の後ろにくる。

また、動詞の場合には1つの述部に1つの動詞しか用いることはできないが、助動詞の場合(まったく無制限にいくつも組み合わせて使うことができるわけではないにせよ)、1つの述部に複数の助動詞を用いることができる。

- (7) 太郎が褒められるだろう。 (褒める+られる+だろう)
- (8) 太郎がリングを食べたがるだろう。 (食べる+たがる+だろう)

(7)では受け身の「られる」と推量の「だろう」が、(8)では希望の「たがる」と推量の「だろう」が、同じ述部の中で用いられている。

日本語でも英語でも、動詞に意味を追加する目的で用いられるのが助動詞である。助動詞と動詞の前後関係は英語と日本語で逆転するが、それぞれの言語内では一定である(日本語は「動詞-助動詞」、英語は「助動詞-動詞」)。

英語の場合

英語の場合も、1文に必ず1つの動詞が含まれる。

- (9) Everyone praises Taro.
- (10) Taro eats an apple.
- (11) Taro sends Hanako a letter.

日本語の場合と同様、助動詞は動詞に意味を追加するために用いられる。英語の助動詞には受動態に使われる be や完了相に現れる have のような助動詞と、can や must や will のような法の助動詞がある。それぞれの文に適宜助動詞を追加してみる((9)は受動態の文に書き換えている)。

- (12) Taro is praised by everyone. (be + praised)
- (13) Taro has eaten an apple. (have + eaten)
- (14) Taro will send Hanako a letter. (will + send)

動詞と助動詞の順番の一貫性に注目してほしい。常に助動詞が動詞に先行している。

日本語と英語では、文の基本語順が逆になることが知られている。たとえば、日本語の動詞は常に目的語に後続するが(リンゴを食べる)、英語は逆に動詞が目的語に先行する(eat apples)。助動詞と動詞の位置関係でも同じことがいえる。(4)-(6)のように、日本語では常に助動詞が動詞に後続する。これに対し(12)-(14)のように、英語では常に助動詞が動詞に先行する。

また、英語でも日本語同様、助動詞が1つの述部の中で複数現れる場合がある。(15)は、日本語の(7)に対応した英語である。(7)の「褒める+られる+だろう」の順番が、(15)ではちょうどその逆(will + be + praised)になっている。

- (15) Taro will be praised by everyone. (will + be + praised)